

## (株)中西豊文園 代表取締役

# 中西義典さん

## 明日へ向かって駆ける

### 農業法人の経営者は語る

「有機栽培と手摘み。ここできかねないてん茶を作っている」と、茶栽培への自らの熱い思いを話すのは、(株)中西豊文園の代表者である中西義典さん(55)。京都市伏見区向島の宇治川沿いの茶園約1・2畝で抹茶の原料となるてん茶を栽培している。

同園は、国内で唯一の有機JAS認定の手摘み茶園として知られる。同園のてん茶から製茶した抹茶は、国内の茶問屋だけでなく、環境や健康にこだわる消費者の多い欧米向けなど、小売店からの引き合いも多い。「海外での抹茶の需要は着実に増えてきている。サプリメント感覚で抹茶を楽しんでいただいている」と中西さん。特に欧州では、有機農業が広まって

いることもあり、有機栽培茶への関心は高いという。

今年の生産高は荒茶で約1ト。そのうち200〜250kgを抹茶に製茶して、海外向け小売店に販売した。「消費地に直結した生産者として、産地としての制約を受けずに、有機栽培と手摘みを特色としてお茶を生産してきたことが評価されている」と中西さんは胸

を張る。

有機栽培は手間がかかるが、中西さんは菜種かすや魚粉などの有機質肥料をすき込む際にも、畝間ではなく株元だけに溝を切って与えるという昔ながらの方法を守

る。課題は茶の摘採期における摘み子の確保だ。5月の茶摘みの時期には、パートも含め50、60人の摘み

子を雇用しており、これまでは向島ニュータウンの居住者を雇用していたが、近年は高齢化が進み、人集めが困難だった。ただし、今年はずりが異なり、コロナ禍による休業要請で「ホテル従業員など他業種からの人材が多くアルバイトで来てくれて大変助かった」と中西さんは胸をなで下ろす。若手料理人などは摘み取りの作業に慣れるのも早く、作業効率も良かったという。

法人設立からまだ日は浅いが、個人事業の形態のころから、中西豊文園は有機栽培の手摘み茶園としてその名をはせていた。「有機の手摘み茶園でそれなりの規模の栽培面積を経営しているのは私たちだけだ。これからも昔ながらの伝統の製法にこだわって作り続けたい」という中西さん。その表情には経営への信念と自信がみえた。

■法人所在地 〓京都市伏見区向島清水町8の1。(電) 075(611) 6087。

■法人概要 〓2017年1月設立。役員2人、パート50〜60人(5月の茶摘み時期だけ)。経営面積 〓茶(てん茶) 1・2畝。

# 茶、有機栽培で手摘み



▲ 茶を有機栽培する中西さん(「中西豊文園」提供)